

調査の背景と概要

2021.3.9

JA共済総合研究所では、「運動器の健康」に関連する調査研究を行っています。

高齢化の進展は、農山漁村地域において顕著です。

加齢に伴う関節疾患などの「運動器」の障害や転倒を誘因とした骨折の連鎖は、介護や支援が必要となる原因の上位を占め社会的な課題となっています。

本研究の一環として、「ヒトの運動器の健康と事故の関連性」を明らかにするために、インターネットを活用した調査を実施しました。

【調査の背景】

「運動器」とは、体の運動に関わる骨、筋肉、関節、神経などの総称です。

「運動器」はそれぞれが連携して働いており、どのひとつが悪くても体はうまく動きません。

また、農山漁村地域では都市部とは主要な職業、生活に必要な移動手段をはじめとする生活環境が大きく異なっています。

人が快適で健康な社会生活を送るためには安全な移動が必要ですが、移動には徒歩以外にも自転車や車・バイク、公共交通機関などが不可欠です。

しかしコロナ禍においては外出、移動の自粛が求められています。

自粛による運動量の低下は体を動かす「運動器」の基本的能力の低下を来し、歩行だけではなく自転車や車・バイクの運転にも影響を与え、結果的に事故の増加につながるかもしれません。

【調査の概要】

調査方法

インターネットを活用した調査
2020年12月23日～12月24日

調査対象

40歳～74歳の日本に居住する男女
回答者数:14,000人

調査回答者の内訳

年代別人数

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
男性	1,176人	1,313人	1,434人	1,514人	1,596人	1,644人	1,638人
女性	824人	687人	566人	486人	404人	356人	362人

地域別人数

北海道 東北	北関東 甲信	南関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州 沖縄
1,047人	472人	6,424人	310人	1,112人	3,189人	704人	742人